

# 学校だより

第27号 ひたちなか市立勝倉小学校

令和4年9月21日(水)発行

〒312-0024 ひたちなか市勝倉3010

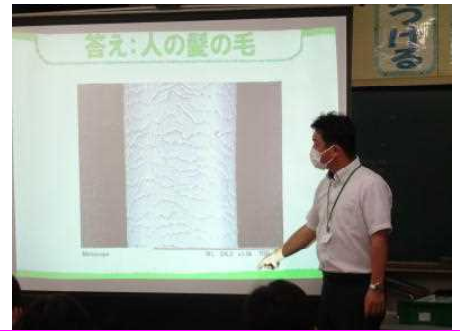
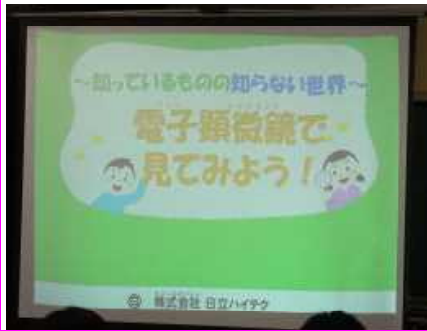
TEL 029-272-2546 FAX 029-273-1986



児童数314名 実家庭数 242戸

## 株式会社日立ハイテクさんによる理科教育支援活動

15日(木)の3校時に5の1、4校時に5の2の子供たちが、日立ハイテクの寺田様と鈴木様に「～知っているものの知らない世界～電子顕微鏡で見てみよう!」という授業をしていただきました。実際に本物の卓上電子顕微鏡を持ってきてくださいました。物を拡大して観察する道具には、ルーペ(2～3倍)、実体(双眼)顕微鏡(40～60倍)、光学顕微鏡(400～600倍)、電子顕微鏡(30,000倍)があることを教えていただきました。電子顕微鏡は30,000倍まで拡大できると聞いたときには、子供たちから感嘆の声があがりました。卓上顕微鏡によって撮影された画像(髪の毛、花粉、アリ等)を使いながら、子供たちにミクロの世界を見せてくださいました。また、「なぜ、蓋の裏にはヨーグルトがつかないの?」という課題をもとに各自予想しました。実際に蓋の裏を触ってみてざらざらしていることに気付きました。電子顕微鏡で拡大すると、おまんじゅうのようなたくさんの突起を見ることができました。これは、水をはじくハスの葉の構造からヒントを得たものです。ハスの葉の水をはじくしくみを生むデコボコの形をまねすることで、ヨーグルトの付かない蓋ができたことを学びました。さらに、蚊の針がギザギザしていることから無痛針が開発されたことも学びました。最後に、“技術や道具の進歩によって見えないものが見えると、しくみや形がわかるようになり、社会を豊かにする新しい技術や製品がうまれる!!”とまとめをしました。子供たちは、初めて知ることがたくさんあり興味をもちながら授業に臨んでいました。貴重な体験をありがとうございました。



## わくわくサイエンスサポーター理科授業支援

9月から5、6年生の理科の授業を前小屋千秋先生がサポートしてくださっています。授業の支援をはじめ、観察実験等の準備や片付け、計画立案及び教材開発の支援、理科室・実験器具・教材機器の整備等をしていただいています。5年生の学習内容は、「流れる水のはたらき」「もののとけ方」「電磁石の性質」、6年生の学習内容は、「水溶液の性質」「土地のつくりと変化」「てこのはたらき」「電気の性質とその利用」です。6年生は12月まで、5年生は1月まで前小屋先生にお世話になります。前小屋先生からメッセージをいただいているので紹介します。



わくわくサイエンスサポーターとして勝倉小学校にお世話になっている前小屋千秋(まえこやちあき)といます。現役時の仕事は、6年生の“水溶液の性質”の応用で、物に含まれる成分の濃度の測定に関するものでした。小学校での理科教育について興味があり、2014年(平成26年)にサイエンスサポーターに応募しました。最初の学校は平磯小学校でした。このときの6年生の「土地のつくりと変化」で理科の専任の先生に学校近くにある見和層の露頭の見学に皆さんと一緒に連れて行ってもらったのが印象的でした。翌年には、先生が転勤になり、それ以降、私が露頭を案内することになりました。同時に茨城県北ジオパーク協議会に入会し、県内各所の地層の見学やひたちなか市の海岸の岩石を調べてきました。現在はひたちなか理科クラブで環境グループを担当しています。このクラブでは市内東石川にある親水性中央公園の植物及び生き物を調べています。特に6年生の「植物の成長と水の関わり」に関連する「植物が水をくみ上げる仕組み」についての実験を組み立てています。この結果は11月5日、6日に開催する科学の祭典・ひたちなか大会に出展する予定です。このように理科について、仕事や趣味を通して楽しみながらいろいろな分野に取り組んできました。学校ではいろいろな実験をする中で、皆さんができるだけ理科に対して興味をもてるように努めたいと思います。よろしくお願ひします。

